# 福祉サービス第三者評価結果報告書（平成30年度）

2019 年　　月　　日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人　東京都福祉保健財団理事長　殿

〒　101-0041
所在地　東京都千代田区神田須田町1－9
相鉄神田須田町ビル203

評価機関名　株式会社　福祉規格総合研究所

認証評価機関番号　機構　03　－　109
電話番号　03-3258-0348
代表者氏名　代表取締役　林　俊哉　印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

| | | 評価者氏名 | 担当分野 | 修了者番号 |
|---|---|---|---|---|
| 評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号 | ① | 山本　伊都子 | 経営 | H1401021 |
| | ② | 杉浦　慎也 | 福祉 | H0702029 |
| | ③ | 戸出　久代 | 福祉 | H0601059 |
| | ④ | | | |
| | ⑤ | | | |
| | ⑥ | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 福祉サービス種別 | 認可保育所 | | |
| 評価対象事業所名称 | くりのき保育園 | | |
| 事業所連絡先 | 〒 | 140-0004 | |
| | 所在地 | 東京都品川区南品川4-1-11 | |
| | TEL | 03-6433-1358 | |
| 事業所代表者氏名 | 園長　落合　丈明 | | |
| 契約日 | 2018 年　11 月　20 日 | | |
| 利用者調査票配付日（実施日） | 2018 年　12 月　3 日 | | |
| 利用者調査結果報告日 | 2019 年　2 月　1 日 | | |
| 自己評価の調査票配付日 | 2018 年　12 月　3 日 | | |
| 自己評価結果報告日 | 2019 年　2 月　1 日 | | |
| 訪問調査日 | 2019 年　2 月　8 日 | | |
| 評価合議日 | 2019 年　3 月　1 日 | | |
| コメント（利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入） | 当園は、4回目の第三者評価への取り組みである。昨年に引き続き当社が担当させていただいた。ただし、多様な視点で評価を行うため、評価者の一部を替えている。 | | |

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、
- ◉ 機構が定める部分を公表することに同意します。
- ○ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- ○ 別添の理由書により、公表には同意しません。

2019 年　3 月　26 日

事業者代表者氏名 園長　落合　丈明　印

| | |
|---|---|
| 1 | **理念・方針 （関連　カテゴリー1　リーダーシップと意思決定）** |
| | 事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、<br>特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述<br>（関連　カテゴリー1　リーダーシップと意思決定） |
| | 個性を引き出す保育<br>地域との連携<br>人間性豊かな子どもを育成する<br>職員の資質の追及とより良い労働条件の保全<br>五感を育む保育 |
| 2 | **期待する職員像 （関連　カテゴリー5　職員と組織の能力向上）** |
| | （1）職員に求めている人材像や役割 |
| | 協調性があり、自ら考え行動できる人<br>思いやりの気持ちがある人 |
| | （2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） |
| | 保育のプロとしての意識。御家庭から園児をお預かりして、大切な乳幼児期を家庭より長い時間過ごす保育所の意味。子どもにとって、何が良いのかを一番に考えられる保育をする。 |

《事業所名：くりのき保育園》

| | |
|---|---|
| 調査対象 | 調査日時点の利用者の全世帯を対象とした。子どもの総数は90名、世帯数は69世帯である。 |
| 調査方法 | 調査票と返信用封筒の配布を事業所に依頼した。回答後、利用者より評価機関宛てに直接郵送してもらった。 |

| | |
|---|---|
| 利用者総数 | 90 |
| 利用者家族総数（世帯） | 69 |
| 共通評価項目による調査対象者数 | 69 |
| 共通評価項目による調査の有効回答者数 | 42 |
| 利用者家族総数に対する回答者割合（%） | 60.9 |

## 利用者調査全体のコメント

42名の回答があり、回答者割合は6割強であった。総合的な園の感想として「大変満足」が32名、「満足」が8名と、有効回答数の9割強を占める結果となっている。
自由意見では「感謝しかありません。毎日子どもの様子を伝えて下さり、皆さんいつも笑顔で接してくれるので安心して預けられます。1人も不信感を持ったことがありません。先生全員好きです。これからもずっとここでお世話になりたいです」、「とても良い保育園です。子どもをとても大切にしてくれています。園も掃除が行き届いていて清潔です。先生方も信頼でき、行事も工夫がなされ最高の保育園だと思います」、「環境も先生方も明るい雰囲気で、子どもたちがのびのびと過ごせているように感じる」、「とにかく先生方が優しくて、愛情いっぱいに接して下さっているのが日々伝わってきます。手作りの美味しそうな給食、年中行事、全て大満足です。清掃もいつも行われていて埃も落ちていません」など満足感を示すコメントが多くあった。意見・要望として「園全体で胃腸炎が大流行しました。園の感染症の対策は具体的にどのようにされているのか、感染を広げないために行っていることを情報共有していただきたいです」などが出ていた。

## 利用者調査結果

| 共通評価項目 | 実数 | | | |
|---|---|---|---|---|
| コメント | はい | どちらともいえない | いいえ | 無回答 非該当 |
| 1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか | 40 | 2 | 0 | 0 |
| 9割強の方が「はい」と回答している。「体操教室（今は縄飛び）やハーモニカ教室、いろいろと教えて下さっています」、「手遊び歌などいろいろ覚えてきて成長を感じます」、「協調性が身についてきました」、「3歳児クラスになり園外保育の回数が増えたり、クッキングや手洗い指導など年齢に応じた活動が行われている」などのコメントがあった。意見・要望として「園から毎日お迎えの際に1日のフィードバックをもらうが、先生によってムラがあるためわからない」などが出ていた。 | | | | |
| 2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか | 41 | 1 | 0 | 0 |
| ほぼ全ての方が「はい」と回答している。「毎日外遊び・室内遊びが工夫して考えられていて、家ではなかなかできない体験ができています」、「上級生の子、下の子（クラス）との交流を遊びや給食などで触れ合えているところ」、「歌やダンス・絵本など興味を持つようになり、言葉もたくさん覚えて帰ってきます」、「お店屋さんごっこ出店について、子どもたちの意見を取り入れるなど子どもたちの興味が持てる工夫がされている」、「日々生活やイベントなどとても愛情を持って考えて下さっている印象です」などのコメントがあった。 | | | | |
| 3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか | 41 | 1 | 0 | 0 |
| ほぼ全ての方が「はい」と回答している。「バランスよく考えられているので、とても感謝しています」、「毎日手作りで美味しそうです」、「『今日はこういうの食べたよ、おうちでも作って』とリクエストしてくれます」、「苦手なものは量を減らしてあげて少しでも食べられるようにしたり、逆に足りない子にはおかわりさせるなど個々の子に配慮してくれている」などのコメントがあった。意見・要望として「延長保育時のおやつ（補食）は、今はお菓子と果物が多いが、おにぎりとかサンドイッチなどだと嬉しい」などが出ていた。 | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか | 42 | 0 | 0 | 0 |
| 全ての方が「はい」と回答している。「普段から戸外へのお散歩が多いことに加え、地域のお祭りや地域清掃など地域活動にも積極的に取り組んでいる」、「散歩に連れて行って下さっているのは聞いています」などのコメントがあった。意見・要望として「バザーやお楽しみ会など行事があって良いです。他の園ではハロウィンもやっていたので、あっても楽しいかもしれません」などが出ていた。 | | | | |
| 5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか | 38 | 1 | 0 | 3 |
| 9割強の方が「はい」と回答している。「電話で『大丈夫ですよ。気をつけて帰って来て下さいね』と優しく声をかけてくれました」、「保護者の入院により急遽お迎え時間が変更になった際も当日に対応して下さった」などのコメントがあった。 | | | | |
| 6. 安全対策が十分取られていると思うか | 37 | 4 | 1 | 0 |
| 9割弱の方が「はい」と回答している。「玄関はオートロックに加え、お迎えの時間には用務員の方が見守りに立って下さるなど安心できる」などのコメントがあった。意見・要望として「玄関前に夕方立って下さっていますので助かっていますが、一方で職員室に先生がいる時といない時のムラがある」などが出ていた。 | | | | |
| 7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か | 40 | 2 | 0 | 0 |
| 9割強の方が「はい」と回答している。「保護者が参加する運動会や劇遊びは、参加しやすいように土日に設定されている」などのコメントがあった。 | | | | |
| 8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか | 40 | 2 | 0 | 0 |
| 9割強の方が「はい」と回答している。「みなさん優しく気さくで良い方ばかりです」、「いつも優しく答えてくれるのでよく相談しています。とってもありがたいです」、「担任の方に加え、園長先生や主任の先生にも相談しやすい関係である」、「いつもとても気持ちよく、そして親身になって相談に乗っていただけています」などのコメントがあった。 | | | | |
| 9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか | 42 | 0 | 0 | 0 |
| 全ての方が「はい」と回答している。「毎日事務のおじさんが快くお掃除してくれています」、「築3年の園舎ということもあり、清潔感があり毎日の掃除も隅々まで行き届いている」、「いつも担当の方が清掃して下さっており、とても清潔です」、「清掃の方もよく見かけますので気持ちがよいです」などのコメントがあった。 | | | | |
| 10. 職員の接遇・態度は適切か | 41 | 1 | 0 | 0 |
| ほぼ全ての方が「はい」と回答している。「皆さん挨拶が徹底していて気持ちいいと思います」、「どの先生も落ち着きがあり、大変好感が持てて安心感がある」、「先生方は優しく温かく、皆挨拶して下さいます」、「全く問題ありません。というよりも素晴らしいと思います」などのコメントがあった。 | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか | 38 | 4 | 0 | 0 |
| 9割強の方が「はい」と回答している。「謝罪含め、信頼ある方々ばかりです」、「発熱などの症状がある場合はお迎えまで事務室で預かって下さるなど、感染が広がらないように対応して下さる」などのコメントがあった。意見・要望として「過度な心配の時も多いかなと思いますが、集団生活なので仕方ないとは思っています」、「もう少し様子見させてほしいと思うことはあります（病院へ連れて行くよう指示）」などが出ていた。 | | | | |
| 12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか | 36 | 4 | 0 | 2 |
| 9割弱の方が「はい」と回答している。意見・要望として「毎日のように噛みつきなどケガが続く時がある」などが出ていた。 | | | | |
| 13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか | 40 | 2 | 0 | 0 |
| 9割強の方が「はい」と回答している。「いつも優しく接してくれてます」、「子ども1人ひとりに向き合って下さっていると思う」などのコメントがあった。 | | | | |
| 14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか | 36 | 4 | 0 | 2 |
| 9割弱の方が「はい」と回答している。「普段のお迎えの際に話せないことは、年2～3回ある個々の面談で相談する機会がある」などのコメントがあった。意見・要望として「欠席の理由を子どもの朝の会で言われる」などが出ていた。 | | | | |
| 15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか | 39 | 3 | 0 | 0 |
| 9割強の方が「はい」と回答している。「3歳児クラスから連絡帳はなくなったが、クラス内に設置されているホワイトボードに1日の内容を丁寧に書いて下さっている」などのコメントがあった。意見・要望として「先生によってムラがあります」、「その日に何があったか・何をしたか、わからない日が多い」などが出ていた。 | | | | |
| 16. 利用者の不満や要望は対応されているか | 36 | 3 | 0 | 3 |
| 9割弱の方が「はい」と回答している。意見・要望として「特に不満がないので大丈夫だと思いますが、ただ『オムツをまめに交換してほしい』と伝えていますが、たまにできていません」などが出ていた。 | | | | |
| 17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか | 26 | 7 | 3 | 6 |
| 6割強の方が「はい」と回答している。「入園説明会で説明があったが、利用する機会がないのでどちらともいえない」などのコメントがあった。 | | | | |

## Ⅰ 組織マネジメント項目（カテゴリー1～5、7）

| No. | 共通評価項目 |
|---|---|

### カテゴリー1

1 リーダーシップと意思決定

#### サブカテゴリー1（1-1）

事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている　　サブカテゴリー毎の標準項目実施状況　7／7

**評価項目1**
事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を周知している　　評点（○○）

| 評価 | 標準項目 | |
|---|---|---|
| ◉ あり ○ なし | 1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 2. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている | ○ 非該当 |

**評価項目2**
経営層（運営管理者含む）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている　　評点（○○）

| 評価 | 標準項目 | |
|---|---|---|
| ◉ あり ○ なし | 1. 経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 2. 経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している | ○ 非該当 |

**評価項目3**
重要な案件について、経営層（運営管理者含む）は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している　　評点（○○○）

| 評価 | 標準項目 | |
|---|---|---|
| ◉ あり ○ なし | 1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている | ○ 非該当 |

### カテゴリー1の講評

**園内研修を行い、保育所保育指針の改訂と保育計画の見直しを学んだ**

法人理念、保育目標、保育方針、保育理念を保育園のしおりに記載している。対外的には、くりのき通信を毎月発行して配布している。法人作成のホームページでは、財務諸表、事業計画、事業報告、施設のご案内、お散歩マップなどを公開している。法人理念は、事務室に掲示するとともに、園長が園内研修の中でスライドを活用し説明している。園長が園内研修を行い、保育所保育指針の改訂と、それに対応した保育課程、年間指導計画の見直しについて学んだ。保護者に対しては、法人理念，保育目標、保育園概要を入園のしおりに記載している。

**地域との連携を積極的に行い、園長・主任が手本となり職員全体に伝えていく**

経営層をはじめ職員の役割と責任は、園規則で明示しているほか、組織表，職務分担表で明確にしている。また、経営層の役割は、法人内職員向けの職員報「やまぶき」でも伝えている。組織として、園長の下に主任、乳児・幼児リーダー、クラスリーダー、保育リーダーを置いている。リーダー会議、職員会議、アレルギー会議、クラス会議の各会議の開催頻度を明文化している。地域との連携を職員が積極的に行えるよう、まず園長・主任が手本になって行っている。主任やリーダークラスが職員をしっかり指導できるよう、トレーニングをしている。

**法人内の他園と合同で主任，看護師，栄養士など職種別に定期的に集まっている**

運営に関する重要事項は、法人内の各保育園の責任者が集まる園長会議で討議している。そのほか法人内の他園と合同で主任、看護師、栄養士など職種別に定期的に集まり、情報を共有したり共通の課題に取り組んでいる。現在、法人内園長会にてキャリアパスの構築を進めている。園内の事項はリーダー会議で検討した後、職員会議で議論している。パソコン内に共有フォルダを作成し、職員間の連絡事項や法人内の他園の情報を共有できるようにしている。保護者に対しては、重要な決定事項を園だよりや掲示などを通じて伝達している。

## 2 カテゴリー2

事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行

### サブカテゴリー1(2-1)

事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6／6

評価項目1
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している

評点(○○○○○○)

| 評価 | 標準項目 | |
|---|---|---|
| ◉ あり ○ なし | 1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 5. 事業所の経営状況を把握・検討している | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している | ○ 非該当 |

### サブカテゴリー2(2-2)

実践的な計画策定に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5／5

評価項目1
事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している

評点(○○○)

| 評価 | 標準項目 | |
|---|---|---|
| ◉ あり ○ なし | 1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている | ○ 非該当 |

評価項目2
着実な計画の実行に取り組んでいる

評点(○○)

| 評価 | 標準項目 | |
|---|---|---|
| ◉ あり ○ なし | 1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる | ○ 非該当 |

| | カテゴリー2の講評 |
|---|---|
| | 法人では人材育成を図るために、人事考課制度の導入を進めている<br>中長期の計画は、理事会を中心に検討している。子育てニーズに対応して保育園の数を増やしており、法人内の職員が増えていく中、職員の育成を図るため人事考課の導入を進めている。園内研修を行い、保育所保育指針の改訂と、それに対応した保育課程、年間指導計画の見直しについて学んだ。様々な係りを設置し、職員が協働して課題の達成に向けて取り組んでいる。次年度の希望は職員が書面に記載し、年1回の園長との面談で伝えている。行事の担当は、リーダーの職員をまんべんなく配置するとともに、職員のやる気を尊重して分担している。<br>保育室の修繕が必要な場合は、現状を確認し優先順位をつけて計画的に行っている<br>予算の進捗状況は、法人事務長が確認し、必要に応じて補正予算を組んでいる。法人園長会が毎月開催され、各園の成果や事故事例などを共有している。設備では、保育室の鍵の修繕が必要となっている。設置個所が多いため、見積もりによると一斉の交換は費用がかさむ。そのため数年にわたり計画的に修繕を行うこととしている。安全対策として、園玄関にカード式の鍵を導入してセキュリティを強化している。また、防犯カメラも複数台設置して録画している。AEDを導入し、職員は救命救急の研修を受講している。<br>使用済みおむつの園内処理を今年度中に実施し、保護者の負担を軽減していく<br>職員会議は園長が報告事項を取りまとめ、事前に配布し、話し合うべき議案に時間を確保できるよう配慮している。会議では、年度当初に担当を決め司会と書記を持ち回り、提案を取りまとめ、事前にレジメを配布し時間内に効率よく話し合いが進められるよう職員が協力している。今年度も園内研修の中で全職員で話し合う機会を設けて、全体的な計画や食育計画について情報を共有した。法人では、今年度中に園の費用負担による使用済みおむつの処理を予定し、保護者の負担軽減に取り組んでいく。また衛生面を考慮し、通年のペーパータオル化も検討している。 |

## カテゴリー3

3 経営における社会的責任

### サブカテゴリー1(3-1)

社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる

**サブカテゴリー毎の標準項目実施状況** 2／2

評価項目1
社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる

**評点(○○)**

| 評価 | 標準項目 | |
|---|---|---|
| ◉ あり ○ なし | 1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。 | ○ 非該当 |

### サブカテゴリー2(3-2)

利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている

**サブカテゴリー毎の標準項目実施状況** 4／4

評価項目1
利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている

**評点(○○)**

| 評価 | 標準項目 | |
|---|---|---|
| ◉ あり ○ なし | 1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある | ○ 非該当 |

評価項目2
虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている

**評点(○○)**

| 評価 | 標準項目 | |
|---|---|---|
| ◉ あり ○ なし | 1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている | ○ 非該当 |

### サブカテゴリー3(3-3)

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

**サブカテゴリー毎の標準項目実施状況** 5／5

評価項目1
透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる

**評点(○○)**

| 評価 | 標準項目 | |
|---|---|---|
| ◉ あり ○ なし | 1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している | ○ 非該当 |

評価項目2
地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている

**評点(○○○)**

| 評価 | 標準項目 | |
|---|---|---|
| ◉ あり ○ なし | 1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる | ○ 非該当 |

| | カテゴリー3の講評 |
|---|---|
| | 職員が守るべき規範や倫理は、法人が作成している倫理規程に規定している<br>職員が守るべき規範や倫理は、法人が作成している倫理規程に規定しているほか、就業規則に服務の章を設けて明示している。規則類は職員がパソコン上で確認することができる。将来的にプライバシーマークの取得を目指しており、その仕組みを取り入れて子どもや保護者に関する情報の取り扱いを徹底している。職員は守秘義務について誓約書を提出している。毎年度、第三者評価に取り組み、結果を公表している。園の情報を外向けの掲示板に掲示している。地域の子育て家庭を対象の「くりのき通信」を毎月発行し、幅広く情報提供を行っている。<br>苦情解決の仕組みを園内に掲示し、保護者に利用できることを伝えている<br>苦情解決の仕組みを保育園のしおりと重要事項説明書に明示している。園内にもプリントを掲示し、保護者に利用できることを伝えている。目的、受付担当者・解決責任者、第三者委員の氏名と連絡先、解決の方法などを記載している。苦情解決の第三者委員として、弁護士1名と地域の代表として民生委員の2名に委嘱している。このほか日々の保護者からの要望は連絡帳や直接保育士を通じて収集している。また、保護者からの意見や要望を収集するための、意見箱を設置している。保護者からも声を掛けてもらえるよう、職員紹介の掲示を一年中行っている。<br>就学に向けて、近隣の小学校や法人外の保育園との交流を実施している<br>地域の子育て家庭を対象に、週2回の園庭開放、月2回の地域体操を行っている。地域との交流を大切に考えており、地域の祭りや防災フェアに参加しているほか、消防団の夜警にも職員が参加している。開設3年目を迎え地域との関係づくりも定着してきていると認識している。就学に向けて、法人外の近隣の園とドッジボールの交流をしている。また、近隣の公立小学校と年長児のプール交流や学校ごっこも実現している。園長・主任だけでなく、職員全員で地域との関わりをさらに深めていきたいと考えている。小・中・高校生の職場体験に対応している。 |

## カテゴリー4

4 リスクマネジメント

### サブカテゴリー1(4-1)

リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる

**サブカテゴリー毎の標準項目実施状況** 5／5

評価項目1
事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる

評点(○○○○○)

| 評価 | 標準項目 | |
|---|---|---|
| ◉ あり ○ なし | 1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる | ○ 非該当 |

### サブカテゴリー2(4-2)

事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている

**サブカテゴリー毎の標準項目実施状況** 4／4

評価項目1
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている

評点(○○○○)

| 評価 | 標準項目 | |
|---|---|---|
| ◉ あり ○ なし | 1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している | ○ 非該当 |

### カテゴリー4の講評

**園内で使用するパソコンにはパスワードを設定しアクセス権を限定している**

子どもや保護者に関する機密性の高い情報は、他の保護者の目に触れることのないよう、施錠のできる場所で保管するように工夫している。また、最新の状況を把握できるよう更新を行っている。園内で使用するパソコンには個人別パスワードを設定してアクセス権を限定している。新システムに変更しセキュリティを強化している。ノートパソコンやタブレット端末の保管場所も決めている。法人としてパソコン上の共有フォルダを活用し、書式、会議録などのデータを共有している。

**プライバシーマークの取得に向けて、情報管理の仕組みを導入している**

法人で個人情報保護規程を制定し、職員内に周知を図っている。常勤・非常勤職員ともに、守秘義務に関する誓約書を提出させている。法人としてプライバシーマークの取得に向けて、様々な取り組みを行っている。個人情報やプライバシーに関する書類は、園外への持ち出しを禁止している。取引業者などに対しても守秘義務を徹底している。

**法人内で事故ガイドブックを作成し、危機管理の意識をさらに高めていく**

火災・地震について様々なシナリオを想定した避難訓練を実施している。月に1回、出火場所を事前に伝えないで訓練を行い万一に備えている。地震発生時マニュアル、不審者対応のマニュアルを整備している。防災マニュアルに関しては園長が研修に参加し、非常時の連絡先など新たに見直した。水害時には屋上に避難することにしている。事故発生時には原因の分析と再発防止策を検討して記録している。昨年度より取り組んでいる事故ガイドブックを完成させた。ヒヤリハット報告書はクラスごとに集計を行い、職員会議で取り上げて事故の予防につなげている。

| | カテゴリー5 |
|---|---|
| 5 | 職員と組織の能力向上 |

| サブカテゴリー1(5-1) | | |
|---|---|---|
| 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる | サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 | 11／12 |

評価項目1
事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている
評点(○○)

| 評価 | 標準項目 | |
|---|---|---|
| ◉ あり ○ なし | 1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる | ○ 非該当 |

評価項目2
事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している
評点(○○)

| 評価 | 標準項目 | |
|---|---|---|
| ◉ あり ○ なし | 1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している | ○ 非該当 |

評価項目3
事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる
評点(○○○○)

| 評価 | 標準項目 | |
|---|---|---|
| ◉ あり ○ なし | 1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている | ○ 非該当 |

評価項目4
職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる
評点(○○○●)

| 評価 | 標準項目 | |
|---|---|---|
| ○ あり ◉ なし | 1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている | ○ 非該当 |

| サブカテゴリー2(5-2) | | |
|---|---|---|
| 組織力の向上に取り組んでいる | サブカテゴリー毎の<br>標準項目実施状況 | 3／3 |

評価項目1
組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に
取り組んでいる　　評点(○○○)

| 評価 | 標準項目 | |
|---|---|---|
| ◉ あり ○ なし | 1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる | ○ 非該当 |

カテゴリー5の講評

### 職員の採用は処遇面を改善し、今後も人材不足の解消に対策を講じていく

園の人事制度に関する方針は、就業規則に記載している。職員の採用は法人で行っている。募集に関しては、学校への公募・ホームページ・保育フェアを利用している。これまで応募が少なく人材の確保ができない状況であったため、初任給を改善するなど対策をしたところ応募者は増加した。依然として続く業界での人材不足も考慮し、引き続き対策を講じ学生に選ばれる法人を目指していく意向である。今回の職員の自己評価では、職員間での意見が言いやすい環境であること、職員が協力して支え合っていることなど良い点として挙げる声が聞かれた。

### 人事考課の本格導入に向けて、研修体系の整備を進めている

法人でコンサルティングを導入し、職種別・職員階層別の研修体系を整備している。職種別の「キャリアパス」として、等級・職位・能力・職責・職務・必修研修・昇格方法を明確化している。今年度の試行期間を経て人事考課を導入し、来年度より処遇面と連動させた本格導入となる。運用に向けて、法人内で、人事考課勉強会や法人内キャリアパス研修が計画されている。人事考課に向けて評価者の育成を進めている。これまでの年功序列型の制度から給与体系が変わることで、職務のやる気・働きがいの向上につながっていくことが期待されている。

### 保育ソフトを導入し、タブレット端末で引継ぎ事項をもれなく遅滞なく伝達している

平成30年度より法人内で保育ソフトを導入している。タブレットやPCが各クラス1台ずつ設置されている。保育に関する記録だけでなく、引継ぎ事項は、もれなく遅滞なく伝達することができ、業務改善にも役立てている。各種園内研修や法人内研修を計画している。園内研修としては、「ミニ研修」として、職員会議のなかで職員が持ち回りでテーマを選び講師となって学びあっている。法人内研修では、保育のスキルを学んだり、法人内各園の同じ年齢を担当する職員が集まり事例検討をしている。外部研修は、各自年2回は参加し、会議内で報告をしている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

平成29年度は、保育所保育指針の改定に伴い保育課程の様式を検討課題とした。園長が、区や東京都社会福祉協議会主催の研修会に参加し、さらに担当の職員が保育部会などの研修に参加し準備を進めてきた。園内研修で11月から全職員が取り組んだ。担当の職員が中心となり説明をしたが、まとまらず次年度に持ち越しとなった。平成30年の年明け、園独自の全体的な計画が完成し、それを基にその他の計画を作成した。平成30年度の園内研修では、皆で作り上げた全体的な計画への理解を確認した。特に、計画の後半部分にあたる社会福祉法人としての役割や株式会社との違いに視点を置いた。園長が発案したクイズ形式で取り組むなど、理解を深められるように工夫した。研修は園長がスライドにて制作した資料を活用し効率を高めている。

| | |
|---|---|
| 目標の設定と取り組み | ◉ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った<br>○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった<br>○ 具体的な目標が設定されていなかった |
| 取り組みの検証 | ◉ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った<br>○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)<br>○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である |
| 検証結果の反映 | ◉ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた<br>○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない<br>○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である |

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

平成29年度は、保育課程の見直しと作成を課題とし明示している。話し合いの結果、意見の集約ができず次年度に持ち越したことが、会議録にて確認ができる。園長や担当職員が、保育所保育指針の改定に関する研修に参加し準備を進めたことが報告書で確認された。研修内容を反映させ、区独自の保育のガイドに沿って保育計画の変更に取り組んでいる。また、前年度、園内研修で職員皆で行った取り組みを薄めないように、総合的な計画の再評価を実施している。実施内容は、担当者以外は意識しづらい項目、地域の子育て支援・安全対策・職員育成・異年齢交流・地域交流・町会活動の社会的貢献についても行われた。当園は地域との連携を大切に考え、地域活動への職員の積極的な参加を促している。経営層が主体となり、課題を再評価することと同時に、地域ネットワークを活かした自園での取り組みを計画的な見直しにつなげている。結果として、目標とする地域貢献への取り組みを職員に深めていることが確認できる。

評価項目2
事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その2）

前年度の重要課題に対する組織的な活動（評価機関によるまとめ）

法人全体で事故防止ガイドラインの作成を課題に挙げ、計画的に取り組んだ。平成29年度に、園庭でのけがをきっかけに、再発防止に向けて作成した。区の事故防止ガイドブックに準拠し検討を重ねた。平成30年1月に完成することができ、その後法人園長会にて承認を受けている。ガイドブックとして各クラスに配布をしている。園内ではファイルしたものを絵本の棚に置き、保護者がいつでも手に取り確認できるようにしている。ガイドブックの存在を知らせることで、安全配慮につなげている。実際の事故については保護者会で説明をし、再発防止に努めている。

| | |
|---|---|
| 目標の設定と取り組み | ◉ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った<br>○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった<br>○ 具体的な目標が設定されていなかった |
| 取り組みの検証 | ◉ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った<br>○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった（目標設定を行っていなかった場合も含む）<br>○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である |
| 検証結果の反映 | ◉ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた<br>○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない<br>○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である |

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

平成29年度は園内での事故状況の把握から再発防止に向けて、法人全体で組織的な取り組みが進められている。保育の安全意識を高めるために、課題の設定は適切と考えられる。ガイドブックの「事故発生時の対応」の項目には、連絡先、伝達内容などもれなく報告できるように工夫がされている。計画報告書にも明示している。今年度は、実際にガイドラインに沿って職員が行動できるように指導を進めている。法人内では各園が、さまざまなマニュアルを作成している。経営層は法人で統一されたマニュアルの整備を今後の課題として認識している。今回の職員アンケートでは、業務の標準化の項目において手引書の活用の項目に関する自己評価が「あまり思わない」が多くみられた。より安全な保育環境の整備に向けて、法人のスケールメリットを活かしたさらなる連携が求められる。

## Ⅱ サービス提供のプロセス項目（カテゴリー6-1～3、6-5～6）

| No. | 共通評価項目 |
|---|---|

### サブカテゴリー1

1 サービス情報の提供　　サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4／4

評価項目1
利用希望者等に対してサービスの情報を提供している　　評点（○○○○）

| 評価 | 標準項目 | |
|---|---|---|
| ◉ あり ○ なし | 1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している | ○ 非該当 |

### サブカテゴリー1の講評

**法人のホームページやパンフレット・しおりなどで園の情報を提供できるようにしている**

法人のホームページに園の基本情報を掲載して、提供できるようにしている。また、園のパンフレットやしおりなどを作成して情報を提供している。パンフレットでは、法人理念，保育方針，保育目標，クラス別保育目標，主な年間行事などを掲載している。見学者には、パンフレット用いて説明を行っている。地域に対しては、子育て情報誌の発行や外壁部分に掲示板を設置して提供している。

**区や関係機関には必要に応じて情報を提供し、連携できるようにしている**

地域向けに子育て情報誌「くりのき通信」を毎月発行している。地域の子育て支援事業のお知らせは、外の掲示板に掲示して、参加を募っている。区の担当課など、行政や関係機関と連携をとっており、園の情報についてはその都度提供している。担当課窓口にパンフレットを置き、手に取ることができるようにしている。区のホームページなどでも、園の基本的な情報を公開している。

**見学についてはできる限り希望に沿った形で行い、個別に対応している**

利用希望者の見学や問い合わせについては、園長・主任保育士・保育リーダーなどが対応している。見学日を設けず、事前に連絡をもらい、保育に支障のない範囲内で見学者の希望に合わせて個別に実施している。見学者には上記のパンフレットを渡して説明している。見学の趣旨を丁寧に確認して、疑問点を解消できるよう説明している。

### サブカテゴリー2

2 サービスの開始・終了時の対応　　サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6／6

評価項目1
サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている　　評点（○○○）

| 評価 | 標準項目 | |
|---|---|---|
| ◉ あり ○ なし | 1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している | ○ 非該当 |

評価項目2
サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている

評点（○○○）

| 評価 | 標準項目 | |
|---|---|---|
| ◉ あり ○ なし | 1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている | ○ 非該当 |

サブカテゴリー2の講評

入園決定後に面接を行い、基本的なルールや重要事項の説明等を行い承諾を得ている

入園決定後園に必要書類を渡して、児童票に生活時間、食事・健康状況、緊急連絡先などの情報を記入し提出してもらっている。入園式前に2日間かけて健診・面接を実施し、その後重要事項の説明を行い、承諾を得ている。説明ではスライドショーを使い、視覚的にわかりやすく伝えている。面接では、担当者・担任が保護者の意向、子どもの状態、家庭での状況などを聞き取り、記録する。0歳児やアレルギー・病気を持つ子どもに対しては個別に聞き取り、状態を把握している。

入園後の慣らし保育については、保護者と相談して無理のない範囲で協力を仰いでいる

入園直後の「慣らし保育」については、特に期間を設定せず、保護者の就労状況や子どもの状況に応じて、話し合いながら無理のない範囲で協力を仰いでいる。入園時の書類や面接などで、各家庭の状況・子どもの成育歴を把握している。午前寝の有無，離乳食の進み具合，好き嫌い，こだわりのあるものなどの情報を把握し、保育に活かしている。入園前の生活環境との違いを少なくすることで、心身の負担を軽減できるように配慮している。

転・退園後も支援が継続できるように、交流会などを企画している

引っ越しや転園先のことで不安が出てくることが考えられるため、退園する際には保護者との連携を密に取るようにしている。来園された際には職員から声をかけて近況を確認し、不安や相談ごとがあれば応じている。転園・退園をきっかけに支援が途切れてしまわないよう配慮している。卒園児を対象としたじゃがいも掘りや交流会を企画し、苗が育った時期に合わせて来園してもらい、一緒に食事をして交流している。

サブカテゴリー3

3 個別状況の記録と計画策定

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12／12

評価項目1
定められた手順に従ってアセスメント（情報収集、分析および課題設定）を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点（○○○）

| 評価 | 標準項目 | |
|---|---|---|
| ◉ あり ○ なし | 1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている | ○ 非該当 |

評価項目2
全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している

評点（〇〇〇〇〇）

| 評価 | 標準項目 | |
|---|---|---|
| ◉ あり ○ なし | 1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護（生命の保持・情緒の安定）と教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の各領域を考慮して作成している | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況（年齢・発達の状況など）に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直している | ○ 非該当 |

評価項目3
子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点（〇〇）

| 評価 | 標準項目 | |
|---|---|---|
| ◉ あり ○ なし | 1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している | ○ 非該当 |

評価項目4
子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点（〇〇）

| 評価 | 標準項目 | |
|---|---|---|
| ◉ あり ○ なし | 1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している | ○ 非該当 |

サブカテゴリー3の講評

### 子ども一人ひとりの発達の経過は、定期的に児童票に記録して把握している

各種計画は、各クラスの担任が打ち合わせをして作成している。個別の月間指導計画（月案）には前月の子どもの様子を記入し、その反省・考察から、今月の目安、配慮する事項、援助内容を導き出している。子どもの日頃の様子を把握して、計画に反映している。毎日の状況は、クラスごとの日誌に記録し把握している。子ども一人ひとりの発達の経過を、児童票に記録している。乳児では言語・認識・手指・身体・食事・排泄・睡眠、幼児は人間関係・環境・言葉・表現など項目別に分け、確認月を記録して把握している。

### 乳児・障がい児には個別に、幼児では年齢毎に月案を作成して保育にあたっている

乳児・障がい児には個別に、幼児では年齢毎に月案を作成している。0歳児の週案には、調乳や離乳食の状態を合わせて記録している。週目標はクラス毎にホワイトボードに記入して、保護者に伝えている。看護師・栄養士・担当職員によって作成と見直しを行っている。緊急に計画を変更する際には、リーダー会議を開き、検討結果を計画に反映させている。毎月行うリーダー会議や職員会議で報告し、他の職員にも周知を図っている。年2回開催している保護者会や年1回行う個人面談（年長は2回）などで、保護者の意向や要望を聞き取っている。

### ICT化を進めており、日誌・計画等の記録類をデータ化している

業務負担の軽減を図るため、法人全体で計画・記録類のICT化を進めている。日誌・計画等の記録類をデータ化している。職員会議・リーダー会・各クラスの打ち合わせを行い、職員間で情報の共有を図っている。職員の気づきに繋がるよう、会議では担当職員が考案したミニ研修を実施している。保育ソフトを使って登降園の管理ができ、その中で伝達事項も記入できるようになっている。また、職員用の伝言ノートを活用し、職員間で伝達漏れのないよう努めている。

サブカテゴリー5

5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5／5

評価項目1
子どものプライバシー保護を徹底している

評点（○○）

| 評価 | 標準項目 | |
|---|---|---|
| ◉ あり ○ なし | 1. 子どもに関する情報（事項）を外部とやりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている | ○ 非該当 |

評価項目2
サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している

評点（○○○）

| 評価 | 標準項目 | |
|---|---|---|
| ◉ あり ○ なし | 1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている | ○ 非該当 |

サブカテゴリー5の講評

**個人情報を取り扱う際には、事前に保護者に承諾を得るようにしている**

子どもに関する情報の取り扱いについては、入園時に説明している。また、法人として個人情報保護規程を策定している。他機関への情報提供、情報媒体への写真の掲載、公の目に触れる書類などで情報を開示する場合には、その都度保護者に使用の承諾を得るようにしている。不都合のある場合には、前もって連絡してもらうよう伝えている。職員には、保育で知り得た情報を外部に漏らすことがないよう誓約書を提出することを義務付けている。

**それぞれの子どもの年齢や発達に応じて、羞恥心に配慮した支援を心掛けている**

子どもの羞恥心に配慮した支援として、幼児トイレに扉を設置して見えないように工夫している。おねしょやお漏らしなどの排泄の失敗の際には、他の子どもに気づかれないよう対応している。プール遊びには水着を着用し、外部から見えないように目隠しを施している。乳児のおむつ交換時には、視界に入りにくい場所におむつ台や場所を設定している。

**虐待の情報を得た場合には、関係機関に連絡し連携を取ることができるようにしている**

個々の家庭の状況を把握し、価値観や生活習慣に配慮した支援を心がけている。虐待の疑いのある子どもの情報を得た場合や事実を把握した際には、速やかに園長に報告し、状況によって関係機関に連絡をする。区の担当課や児童相談所など、関係機関との連携体制を整えている。

サブカテゴリー6

6 事業所業務の標準化

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5／5

評価項目1
手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点（○○○）

| 評価 | 標準項目 | |
|---|---|---|
| ◉ あり ○ なし | 1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している | ○ 非該当 |

評価項目2
サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点（○○）

| 評価 | 標準項目 | |
|---|---|---|
| ◉ あり ○ なし | 1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている | ○ 非該当 |

サブカテゴリー6の講評

今年度、法人内で「事故ガイドブック」を完成させ、運用を始めた

法人内で「事故ガイドブック」を作成している。毎月チェックを行うなどして、今年度から運用を始めた。業務の基本事項や手順については、会議や研修を利用して職員全体に周知させている。園内では行事マニュアル、地震発生時マニュアル、不審者対応のマニュアル、防災マニュアルなどを作成している。サービスの基本事項や手順などは、保育リーダー、クラスリーダー、乳児・幼児リーダー、主任保育士や園長などが確認を行い、必要があれば助言・指導などを行っている。

法人内で職種別に定期的に集まり、情報を共有したり共通の課題に取り組んでいる

法人内の他園と合同で、主任，看護師，栄養士などが職種別に定期的に集まり、情報を共有したり共通の課題に取り組んでいる。現在法人統一のマニュアルの作成に取り組んでいる。事故発生時には原因の分析と再発防止策を検討して記録している。ヒヤリハット報告書はクラスごとに集計を行い、職員会議で取り上げている。口頭や連絡帳、第三者評価の利用者アンケート、行事後のアンケートなどで保護者から寄せられた意見・要望などは、職員間で見直したり、話し合うことで確認し、次年度の計画に反映するようにしている。

Ⅲ サービスの実施項目（カテゴリー6-4）

| | サブカテゴリー4 | | |
|---|---|---|---|
| | サービスの実施項目 | サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 | 35／35 |

1 評価項目1
子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている

評点（○○○○○○）

| 評価 | 標準項目 | |
|---|---|---|
| ◉ あり ○ なし | 1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 4. 特別な配慮が必要な子ども（障害のある子どもを含む）の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル（けんか・かみつき等）に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 6.【5歳児の定員を設けている保育所のみ】<br>小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している | ○ 非該当 |

評価項目1の講評

### 子ども1人ひとりの発達過程や生活環境を児童票に記録して把握している

子ども1人ひとりの発達過程や生活環境は、児童票、面接・入園時の児童調査表、健康診断票に記録し把握している。児童票の発達の経過記録は、0歳児は毎月、1歳児以上は1年を4期に分けて期ごとに記録している。児童票・日誌・計画等の記録類はICT化を進めてデータで管理し、職員間で共有している。特別な配慮が必要な子どもの保育は、必要に応じて担当職員を配置し、毎月、園長・担任・保護者が面談し個別支援を検討している。定期的に専門家の巡回指導を受けて、保護者を通して専門機関とも連携しながら取り組んでいる。

### 子どもが落ち着いて遊び込める環境を整えて、日常的に異年齢児との交流を行っている

保育室は食事・睡眠・遊びのエリアを分けて、子どもが落ち着いて過ごせるように配慮している。ままごと・ブロック・絵本等の遊びのコーナーがあり、子どもが自分で選び、玩具を手に取れるように配置している。また、ブロック等で製作途中のものは、時間をかけて取り組めるように所定の場所に1週間保管する。進級時は保育室・玩具等の環境が変わるので、進級前にひとつ上のクラスを訪ねて過ごし、子どもが徐々に慣れるようにしている。給食・散歩・行事等で異年齢交流を実施し、0歳児と5歳児の保育室を隣り合わせて日常的な交流を図っている。

### 子どもの気持ちを尊重した対応を心掛けて、年長児の就学は小学校と連携し支援している

発達過程で生じる子ども同士のトラブルは、双方の気持ちを尊重して対応している。乳児はケガがないように職員が仲介し、言葉で伝えられない子どもの気持ちを汲んだ対応を心掛けている。幼児は子ども同士で解決できるように話し合い、上手に気持ちを伝えた時は褒めて、相手の気持ちを考えられるように支援している。年長児の就学に向けて、保育要録を作成し就学時連絡会に出席して小学校と連携を図っている。年長児は小学校を訪問しプール活動・給食等で交流している。3月のOB交流会に卒園児を招き、小学校の話を聞いてドッチボールで交流している。

2 評価項目2
子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点（○○○○）

| 評価 | 標準項目 | |
|---|---|---|
| ◉ あり ○ なし | 1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 3. 休息（昼寝を含む）の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている | ○ 非該当 |

評価項目2の講評

連絡帳・個別ノート・クラスのホワイトボードで、子どもの様子を保護者に伝えている

登園時に子どもの様子を視診しながら、保護者にも確認している。乳児クラスは連絡帳に体調・食事・排泄・睡眠等を記録し、家庭と園での子どもの様子を伝える。幼児クラスは必要な場合は個別ノートにその都度記入し、保護者と連携を図っている。連絡帳・連絡ノートは個々の報告・連絡事項を詳しく記入して保護者に引き継ぎ、各クラスのホワイトボードはその日の活動内容やクラスの様子を保護者に伝えている。降園時は担当職員が保護者へ直接口頭でも伝えている。

子どもの発達の状況に応じて、基本的な生活習慣が無理なく身につくように援助している

基本的な生活習慣は子どもの発達にあわせて、無理がないように個別に支援している。クラスだより等で年齢別の子どもの姿、生活習慣の具体的な取り組みを保護者に伝えて、理解と協力を得るようにしている。排泄は言語の発達、排泄の間隔を見ながら、1歳児がオマルに座ることを試している。食事は手指の動き等を見ながら、スプーン・箸・コップ等の持ち方、使い方を援助し、食事中の姿勢やマナーも整えている。衣服・靴の着脱、着替えの準備・おかたづけ等、少しずつできることを増やし、5歳児は自分のものを自分で管理できるようにしている。

年齢、発達過程、その日の活動や体調に応じて、休息がとれるよう個別に配慮している

年齢や発達に応じた午睡時間を設けている。0歳児は個々に生活リズムにあわせて対応し、抱っこやおんぶで眠ることもある。1歳児以上のクラスは午前中によく体を動かし、心地よい疲れの中で午睡できるように配慮している。4歳児クラスは秋の運動会が終わると午睡時間を徐々に短くして、5歳児は午睡をしていない。ただし、子どもの体調に応じて休息を取るように、個別に支援している。プール活動や運動会の練習日などは運動量が多いので、必要に応じて休息する時間を設けている。

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点（○○○○○○）

| 評価 | 標準項目 | |
|---|---|---|
| ◉ あり ○ なし | 1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している | ○ 非該当 |

評価項目3の講評

子どもが自由に遊べる環境があり、自分で身の回りを整えられるように援助している

保育室は食事・睡眠・遊びのエリアを分けて、ままごと・ブロック・絵本等の遊びのコーナーがあり、子どもが自由に玩具を手に取れるように配慮している。ブロック等の作りかけのものは、引き続き取り組めるように1週間保管する。ロッカー・靴箱は子どもの個々のマークを付けて、乳児でも自分のもの・場所がわかり、興味を持って自分で取り出し片づけられるようにしている。幼児では金曜日を片づける日に設定し、子どもが自分のロッカーの掃除や整頓をする。幼児は当番活動があり、朝の会や給食のあいさつ、午睡の準備などを手伝っている。

音楽・体操・製作等の活動で感覚・表現力・協調性・自主性等を育むように支援している

乳児クラスは子どもと信頼関係を築き、子どもが安心して過ごせるように声をかけて援助している。幼児クラスは、ルールがある遊びなどを通して人との関わりを経験し、自分の気持ちを調整し自ら考えて行動できるように援助している。外部講師によるリズム教室・鍵盤ハーモニカ教室・体操教室を、年齢に応じた内容で年間計画を作成し行っている。教室活動ではリズム感・表現力を育て、運動機能や感覚の発達を促し、協調性・自主性等も育んでいる。その他、様々な素材・道具を使った製作活動もあり、幼児はボディ・ペインティングを行う機会がある。

戸外・園外に出て自然に触れるなど、様々な体験ができるようにしている

五感を育む保育を目指し、戸外・園外活動を積極的に実施している。芝生の園庭は主に乳児が遊び、幼児は散歩マップを作成し近隣の公園に出かけている。園庭は砂場・鉄棒等の遊具を周囲に配置し、山桃・桜・山茶花・ツツジ・椿・栗等の樹木の植え込みがあり、四季を身近に感じて過ごすことができる。公園ではザリガニ・昆虫等の小さな生き物、草木の変化を観察し、体を動かして遊ぶことができる。年数回の園外保育では遠方の公園に足を延ばし、5歳児は田植え・稲刈り・宿泊保育等に出かけている。夏季はプールを設置して水遊びをしている。

4 評価項目4
日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している

評点（○○○）

| 評価 | 標準項目 | |
|---|---|---|
| ◉ あり ○ なし | 1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている | ○ 非該当 |

評価項目4の講評

季節の行事が多彩で、子どもたちが園内外で様々な体験ができるように取り組んでいる

餅つき・凧あげ・節分・ひな祭り等の季節の伝統行事を開催し、町会の祭りでは幼児が神輿を担ぎ町内を練り歩く。5歳児は日光宿泊保育・田植え・稲刈り・みかん狩り・お別れ園外保育等があり、園外で社会見学・ハイキング・オリエンテーリング・収穫体験等を実施している。また、お店屋さんごっこ・お別れ園外保育は、幼児が縦割りグループや縦割りペアで取り組み、異年齢児同士の交流がある。その他に、祖父母交流会・運動会・劇遊び会等の家族が参加する行事もある。誕生日会は全クラス参加で開催し、誕生日当日にクラスの中でもお祝いしている。

行事の準備から子どもたちが意見を出し合い、運動会・劇遊び会は活動の成果を発表する

リズム教室・鍵盤ハーモニカ教室・体操教室を、年齢に応じた内容で年間計画を作成し定期的に行っている。教室活動ではリズム感・表現力を育て、運動機能や感覚の発達を促すとともに、協調性・自主性等も育んでいる。これらの成果は運動会・劇遊び会で保護者に披露している。行事の企画・準備から子どもたちが参加し、意見を出し合い取り組んでいる。お店屋さんごっこはテーマや役割分担を子どもたちが決めて、商品や小道具の製作を行う。5歳児は劇遊びの内容を自分たちで決めて、作り上げたものを発表している。

保護者会・園だより等で行事の詳細を伝えて、保護者と一緒に取り組むよう工夫している

年度初めに年間行事予定表を保護者に配布し、運動会・劇遊び会等の保護者が参加する行事は土曜日に開催して、できる限り参加しやすいように配慮している。運動会の会場は小学校を借りて、雨天は体育館で開催している。大きな行事の後はアンケートを実施し、保護者の感想や意見を考慮して次年度計画を検討している。行事の様子は、園だよりに写真を添えて紹介している。保護者会では遠足で着用するTシャツ、運動会のメダル、卒園式のコサージュ等を保護者と製作し、行事や子育てを一緒に取り組んでいると感じられるようにしている。

5 評価項目5
保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている

評点（○○）

| 評価 | 標準項目 | |
|---|---|---|
| ◉ あり ○ なし | 1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている | ○ 非該当 |

評価項目5の講評

保育室は遊び・活動や動線などを考慮して、それぞれの年齢に応じた環境を整えている

3階建ての園舎で、年齢別クラスの保育室、園庭、遊戯室、外遊び・水遊びができる屋上スペースがある。0歳児は保育室を食事・活動・睡眠のエリアに分けて、おむつ替えのスペースは衛生面を考慮し保育室の外に設けている。1歳児は座って遊ぶエリアと動いて遊ぶエリアを設けている。床材にクッション材を使用し、0～2歳児は裸足で過ごしている。園内の掃除は清掃担当者が細部まで行い、清潔に保たれている。延長保育時間は少人数なので1階の保育室に集り、年齢にあわせた玩具・絵本を用意している。

幼児は定期的に縦割り保育を実施し、日頃から異年齢児と交流できるようにしている

早朝・夕方は異年齢の合同保育（0歳児以外）を行い、子どもの発達に応じた玩具を用意してコーナー遊びを展開している。幼児は月2回、3つのグループに分かれて縦割り保育を実施し、異年齢児が一緒に過ごしている。異年齢交流を通して小さな子への思いやりを育み、年上の子を真似ながら成長することを支援している。0歳児と5歳児は保育室が隣り合い、日頃から関わりを持てるようにしている。延長保育時間は補食を提供しており、当日の申し込みにも対応している。

6 評価項目6
子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評点（○○○○）

| 評価 | 標準項目 | |
|---|---|---|
| ◉ あり ○ なし | 1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 3. 子どもの体調（食物アレルギーを含む）や文化の違いに応じた食事を提供している | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 4. 食についての関心を深めるための取り組み（食材の栽培や子どもの調理活動等）を行っている | ○ 非該当 |

評価項目6の講評

旬の食材を使用し、季節感のある行事食を取り入れて、楽しい食事を工夫している

区立保育園の統一献立に基づき、園独自の献立を取り入れている。食品添加物を含む食材は使わず、旬の食材を取り入れて、食材の味を活かす薄味で調理している。行事食は季節や特別感を味わえるように、クリスマスのミートローフ、節分の恵方巻など、献立と盛り付けを工夫している。最初の盛り付け量は個々に食べられる量に調整し、完食の達成感や満足感があるように配慮して、おかわりを用意している。食事の意義、取り組み、離乳食、月齢別食育について「保育園のしおり」で保護者に伝えている。

食物アレルギーは除去食・アレルギーフリー食を提供し、誤食を防ぐ体制を強化している

毎月法人全体で給食会議を開催し、献立や食物アレルギーの対応を検討している。園内研修でアレルギーやアナフィラキシー反応への対処を職員が学んでいる。食物アレルギーには、医師の診断書に基づき栄養士が把握して除去食を提供している。他の子どもの食事と差がないように、できる限り見た目が同じように盛り付ける配慮がある。また、土曜日保育はアレルゲン食材を含まないアレルギーフリー食を提供している。除去食担当調理員を決めて専用トレイ・皿を使い、複数回のダブルチェックを行うなど、誤食を防ぐ体制の強化に取り組んでいる。

野菜の栽培、稲作、クッキング保育、栄養指導等の食育活動を行っている

食育活動は、トマト・ピーマン・ブロッコリー・品川蕪等の野菜を栽培し、収穫した野菜は給食やクッキング保育に使用している。田植え・稲刈りの園外保育があり、籾摺り・脱穀をして近隣の米店で精米してもらい、おにぎりを作っている。クッキング保育は野菜等の食材に触れて、ピーマンの肉詰め、サラダ、恵方巻等を作ったり、園庭のヤマモモでジャム・ゼリー・シロップ等を作っている。流しソーメン、みかん狩り、餅つき等の行事もあり、食への関心を深めている。食事のマナー、正しい姿勢、箸の使い方等を伝える栄養指導を実施している。

7 評価項目7
子どもが心身の健康を維持できるよう援助している

評点（○○○）

| 評価 | 標準項目 | |
|---|---|---|
| ◉ あり ○ なし | 1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み（乳幼児突然死症候群の予防を含む）を行っている | ○ 非該当 |

評価項目7の講評

防犯防災訓練、手洗い・うがい・歯磨き指導等で、病気やけがの予防を意識づけている

子どもと一緒に防犯防災訓練を実施し、交通ルールは朝の会・散歩でその都度子どもに伝えて意識づけている。「帰りのお約束」として、階段に1人で行かない、玄関の外に1人で出ない等を保育室に掲示していた。感染予防は看護師が中心になり、手洗い・うがい指導をして習慣化している。保育室内に手洗い場所を設置し、イラストで手洗い方法を掲示している。歯磨きは3歳児クラスの6月から、看護師が歯の大型模型等を使って歯磨き指導を実施し、3歳児は職員が仕上げ磨きを行い、5歳児までに自分でできるようにしている。

医療的ケアが必要な場合は、園長・看護師・嘱託医が連携し保護者と対応を相談する

医療的なケアが必要な場合は、園長・看護師と保護者が相談し、必要に応じて嘱託医の助言・指導を受けながら対応する。与薬は原則行わないが、アレルギーや慢性疾患で服用が必要と主治医が判断した場合は、「与薬依頼書」の提出を受けて、薬の説明書と共に処方薬に限り1回分を預かる。ケガをした時の対応手順を整えて、「保育園のしおり」に掲載し保護者にも伝えている。緊急時に備えて、園内にAED（自動体外式除細動器）を設置し、職員はAED操作やアナフィラキシー反応の対応を研修で学んでいる。

保健だより・保育園のしおり・掲示板等で、健康管理の情報を保護者に伝えている

子どもの健診結果・身体測定値・予防接種などを「健康カード」に記録し、保護者と情報を共有している。「保育園のしおり」に登園前の健康チェック、予防接種一覧表等を掲載し、基本的な生活習慣が大切であると伝えている。毎月発行する保健だよりは保護者に健康管理の情報を提供し、感染症の流行が予測される段階で、気をつける症状等を伝えている。感染症の発症時は園内に最新情報を掲示する。乳幼児突然死症候群の予防は、午睡中に0歳児は5分ごとに姿勢・顔色・呼吸等を確認し、1歳児以上も時間を設定してチェック表に記録している。

8 評価項目8

保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点（○○○○○）

| 評価 | 標準項目 | |
|---|---|---|
| ◉ あり ○ なし | 1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 2. 保護者同士が交流できる機会を設けている | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している | ○ 非該当 |

評価項目8の講評

2時間の延長保育を実施しており、必要な方が利用できるようにしている

延長保育を18時31分から20時30分までの2時間として実施している。延長保育は、人数制限を設けていない。基本的には前日までに申込みをしてもらうことを伝えているが、保護者の就労状況に配慮して急な依頼でも柔軟に対応している。補食も用意している。各家庭の子育てや就労などの個別事情を把握して、保護者の立場に立った対応を心掛けている。入園前の面接において入園前の生活や発達の様子を詳細に聞き取り、個別事情に応じた支援をしている。

各種行事に保護者が参加・協力するなかで、互いに交流ができるようにしている

保護者が参加できる行事として、運動会、劇遊び会などがある。行事の日程は、年度初めに行事予定表を配付し、なるべく多くの保護者が参加しやすいように、土曜日を中心に設定している。行事に参加・協力するなかで、保護者同士が交流できるようにしている。運動会では、Tシャツやメダルの作成を保護者にお願いしている。卒園時のコサージュ作りもお願いしている。大きな行事の後にはアンケートを実施して、保護者の意向を次年度の計画に反映するよう努めている。

園の様子を保護者に詳細に伝えることで、共通の認識が持てるようにしている

園での様子は、0・1・2歳児は個別の連絡帳に、3・4・5歳児では各クラスごとに設置しているホワイトボードに、その日の活動内容や様子を書いて知らせている。園だより・くりのき通信、クラスだよりなどを通じて、子どもたちの園での様子や園からの伝達事項を伝えている。年2回、保護者会を開催するほか、希望者を対象に保育参観（0・1・2歳児）や保育士体験（2・3・4・5歳児）を実施している。保護者会では園の方針や子どもたちの状況を伝え、保護者が抱えている共通の悩みなども気軽に語り合える場となるように配慮している。

9 評価項目9

地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている

評点（○○）

| 評価 | 標準項目 | |
|---|---|---|
| ◉ あり ○ なし | 1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している | ○ 非該当 |
| ◉ あり ○ なし | 2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している | ○ 非該当 |

評価項目9の講評

地域の町会との関わりや職場体験・実習生の受け入れ、小学校との交流等の機会がある

月1回、5歳児が地域清掃を行い、近隣のゴミ拾いをしている。町会のお祭りに参加したり、園児の祖父母を招いて交流会を行うほか、つきたてのお餅を町会に配るなど地域の方と交流する機会を設けている。また、高校生の職場体験や実習生の受け入れ、5歳児の近隣の小学校との交流、保護者の保育士体験も実施している。今年度は今まで交流していた小学校とは別の学校との交流が始まった。

地域の子育て支援を実施しており、参加する親子と交流している

地域の子育て支援として、地域体操や園庭開放などを実施している。地域体操は隔週で実施しており、親子で体を動かして楽しんでもらえるように実施しており、園児と交流する事もある。園庭開放は毎週火・木曜日に実施しており、砂場や鉄棒などを自由に使えるようにしている。園児が遊んでいる時間帯には、子ども同士で交流ができるようにしている。一時保育は現在定員に空きがあるクラスのみ受付をして、同じ年齢の子ども同士が交流している。

| 事業者が特に力を入れている取り組み① | | |
|---|---|---|
| 評価項目 | 6-4-1 | 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている |
| タイトル① | 縦割り保育や異年齢交流を日常的に実施し、思いやり等の気持ちを育てる支援をしている | |
| 内容① | 幼児は月2回、縦割りグループで給食・散歩等を一緒に過ごす縦割り保育を行っている。散歩は3歳児と5歳児、2歳児と4歳児のように年齢が離れたクラスが一緒に出かけることもある。0歳児と5歳児は保育室が隣り合い、日常的な交流を図っている。お店屋さんごっこは縦割りグループで準備から取り組み、お別れ園外保育は4・5歳児の異年齢ペアで行動する。OB交流会は、卒園児が年長児に小学校の様子を話し、一緒に遊ぶ機会を設ける。これらの異年齢交流を通して小さな子への思いやりを育み、年上の子を真似ながら成長することを支援している。 | |

| 事業者が特に力を入れている取り組み② | | |
|---|---|---|
| 評価項目 | 6-4-3 | 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している |
| タイトル② | 戸外・園外活動を積極的に実施し、自然に触れて様々な体験ができるよう取り組んでいる | |
| 内容② | 五感を育む保育を目指し、戸外・園外活動を積極的に実施している。芝生の園庭は主に乳児が遊び、幼児は散歩マップを作成し近隣の公園に出かけている。園庭は山桃・桜・山茶花・ツツジ・椿・栗等の樹木の植え込みがあり、四季を身近に感じて過ごすことができる。公園ではザリガニ・昆虫等の小さな生き物、草木の変化を観察し、体を動かして遊ぶことができる。年数回の園外保育では遠方の公園に足を延ばし、5歳児は田植え・稲刈り・宿泊保育・みかん狩り等に出かけている。夏季はプールを設置して水遊びをしている。 | |

| 事業者が特に力を入れている取り組み③ | | |
|---|---|---|
| 評価項目 | 6-4-6 | 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している |
| タイトル③ | 食物アレルギーの調理・配膳手順を見直し、チェック体制を強化している | |
| 内容③ | 食物アレルギーは、医師の診断書に基づき栄養士が把握し、除去食を提供している。土曜日保育はアレルゲン食材を含まないアレルギーフリー食を提供している。誤食を防ぐために除去食担当調理員を決めて、専用トレイ・皿を使い、ラップで蓋をして名前を記入する。配膳時は調理室・事務室・保育室前で職員2名で確認し、栄養士が担当保育士に直接手渡している。保育室内では座席を決めて混入を防ぎ、アレルギー用のおかわりを用意している。アレルギー対応、事故防止は法人の給食会議等でも対策を検討している。 | |

《事業所名：くりのき保育園》

| No. | 特に良いと思う点 | |
|---|---|---|
| 1 | タイトル | 異年齢交流や地域の人と接する機会が多く、子どもの自立心や人との関わる力を育てている |
| | 内容 | 幼児は月2回縦割り保育を実施し、お店屋さんごっこ等の行事でも異年齢児が一緒に取り組んでいる。0歳児と5歳児の保育室は隣り合い、日頃から自然に交流がある。異年齢交流を通して思いやりを育み、年上の子を真似ながら成長することを支援している。また、園外の人と関わる機会が多く、教室活動は外部講師が担当し、年長児は小学校訪問やOB交流会で小学生と過ごす。町会の祭りで園児が神輿を担ぎ、品川蕪を栽培して地元の品評会に出品している。様々な人に接することで、自立心や人と関わる力を養っている。 |
| 2 | タイトル | 戸外・園外での活動を多く取り入れることで、子どもたちが自然に触れられるようにしている |
| | 内容 | 自然に触れて様々な体験ができるように、戸外・園外での活動を積極的に保育に取り入れている。芝生の園庭は主に乳児が遊び、幼児は散歩マップを作成し近隣の公園に出かけている。園庭は砂場・鉄棒等の遊具を周囲に配置し、山桃・桜・山茶花・ツツジ・椿・栗等の樹木の植え込みがあり、四季を身近に感じて過ごすことができる。公園ではザリガニ・昆虫等の小さな生き物、草木の変化を観察し、体を動かして遊ぶことができる。園外保育では遠方の公園に足を延ばし、5歳児は田植え・稲刈り・宿泊保育等に出かけている。 |
| 3 | タイトル | 子どもたちが様々な経験を積むことができるように、多彩な行事を企画し実施している |
| | 内容 | 季節の伝統行事のほかに、年間を通して様々な行事を行っている。町会の祭り、宿泊保育、じゃがいも掘り、バザー、祖父母交流会、運動会、お店屋さんごっこ、お楽しみ会、劇遊び会などを実施している。行事の企画・準備から子どもたちが参加し、意見を出し合い取り組んでいる。お店屋さんごっこはテーマや役割分担を子どもたちが決めて、商品や小道具の製作を行う。5歳児は劇遊びの内容を自分たちで決めて、作り上げたものを発表している。子どもたちが主体的に関わり、充実感や達成感が得られるように取り組んでいる。 |

| No. | さらなる改善が望まれる点 | |
|---|---|---|
| 1 | タイトル | 職員の意見を把握・分析しながら、さらに働きやすい職場づくりに取り組んでいく |
| | 内容 | 今回の職員自己評価では、職員の人手不足の解消、業務負担の軽減、情報の取り扱いに関する意見が複数聞かれた。今年度は保育ソフトの入れ替えも行われ業務負担の軽減に取り組んでいる。職員の意見に耳を傾け、業務内容や職員体制の見直しや事務時間の確保を図り、さらに働きやすい職場づくりに取り組んでいく意向である。 |
| 2 | タイトル | 人事考課の導入により、職員のやる気・働きがいの向上につなげていく |
| | 内容 | 法人内で人事考課の導入に取り組んでいる。今年度の試行期間を経て、来年度より実施となる。勉強会などを通じ、人事考課に向けて評価者の育成を進めている。上司による評価や面談を通じて職員の育成に役立てていくとともに報酬に連動させることにより、プロ意識を高め、職員のやる気・働きがいの向上につなげていくことが期待される。 |
| 3 | タイトル | これまで積み重ねてきた地域のネットワークを活かし、地域との連携をさらに深めていく |
| | 内容 | 園では、平成27年度の新規開園から地域との交流を大切に考えており、園長・主任をはじめ職員も交代で、地域のお祭りや防災訓練に参加している。散歩の時に、顔を覚えた近隣の方と挨拶ができる関係づくりを進めている。また小学校でのプール交流が実現するなど、地道な関係づくりが定着してきていると認識している。今後は、園の側で建設中の高齢者施設のお年寄りとの交流をし、地域貢献をしていきたいと考えている。 |